

寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術(追補:品種「朝霧」)

【1 成果概要】

温度-生育モデル によって、メッシュ単位での播種日の判定が可能になります(表1)。温度-生育モデル は生育予測ができ、気温・地上部生体重の実測値と合わせると栽培管理(ハウスの開閉・べたがけによる保温)の指標として利用できます(図1)。

表1 「朝霧」の 温度-生育モデル を利用した作期判定例(軽米)

ハウス管理 播種日	ハウス管理の違いによる寒締め出荷可能年の割合(%)								
	ハウス開放管理			ハウス閉切管理			ハウス閉切管理+べたがけ		
	可能	過大	過小	可能	過大	過小	可能	過大	過小
9/20	28	72	0	0	100	0	0	100	0
9/25	76	14	10	17	83	0	0	100	0
10/1	59	0	41	66	34	0	17	83	0
10/5	21	0	79	90	7	3	83	17	0
10/10	10	0	90	86	0	14	97	0	3
10/15	0	0	100	69	0	31	93	0	7
10/20	0	0	100	38	0	62	79	0	21
10/25	0	0	100	14	0	86	62	0	38

注) 「過大」…大きくなりすぎて出荷規格を外れる年の割合
 「過小」…小さすぎて出荷規格を外れる年の割合
 「可能」…寒締めとして出荷できる時期に出荷規格に適するサイズになる年の割合が80%以上になる日を播種適日とした。

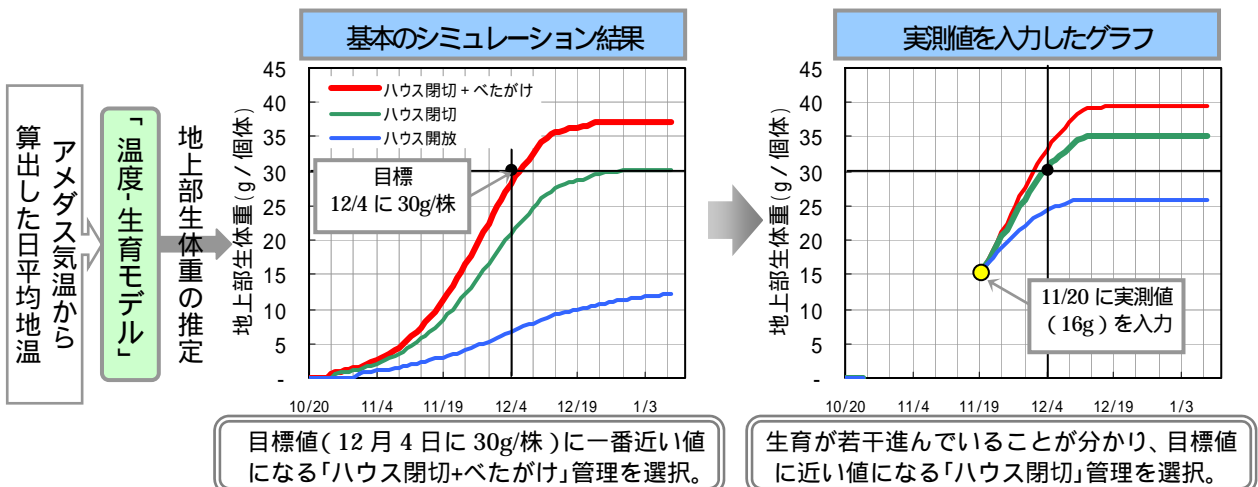


図1 「朝霧」の温度-生育モデルの利用例(軽米:10月5日播種・12月4日に30g/株を目標)

【2 効果】

1 寒締めほうれんそうの安定生産・安定出荷(適期播種と適切なハウス管理が可能となるため)

【3 留意事項】

「朝霧」の 温度-生育モデル は、県内4ヶ所の「朝霧」の生育データから算出した係数を用いたものであり、他の品種への適応調査は未実施である。なお、温度-生育モデル は、北海道農業研究センター成果情報「寒締めほうれんそうの栽培支援に有効な地温-生育モデル」を参照のこと。

【4 適応対象】

品種「朝霧」を用いて寒締めほうれんそうを栽培している産地の営農指導担当者